

1. 事業の経緯と現況

武雄温泉保養村の整備事業は、昭和43年から45年にかけて、池ノ内保養村内に3本の泉源を開発してから始まりました。昭和45年から53年頃には、道路等の整備とあわせて、公共の宿泊施設の誘致を進め、白岩運動公園と文化会館を含めたスコーレ(保養・学習・運動)の理念により、観光客や市民が、家族ぐるみでくつろげる西九州の保養の拠点として整備を進めてきました。

保養村整備計画は、第1次整備計画(平成2年度～平成5年度)・第2次整備計画(平成7年度～平成10年度)として、周遊道路、せせらぎプロムナードやふれあい広場など基盤整備や施設整備に取り組みました。平成7年度には、武雄簡易保険保養センター併設のアネックス・スポーツランドがオープンし、また、平成11年度には、佐賀県立宇宙科学館が保養村の中核的な施設として建設されました。このようにして、滞在型の余暇活動の機能充実を図り、広域的な高速交通体系の整備による西九州の交通の結節点としての地理的な優位性もあり、現在では、年間20万人以上に利用される本市の重要な観光及びレクリエーションの拠点となっています。

しかし、昨今の観光ニーズの多様化や、郵政公社の「アネックス・スポーツランド」の平成16年9月末の閉鎖など、保養村を取り巻く環境は厳しさを増す状況にあり、宿泊者数や施設利用者数は減少傾向にあります。

そこで、恵まれた自然環境にあり、リフレッシュ保養の場として長年にわたり育てられた保養村を整備し、スコーレ(保養・学習・運動)の基本理念のもと、次世代に確実に継承していく必要があります。

本計画では、これまでの保養村の整備を受け、環境省が定める国民保養温泉地の指定を受けながら、「リフレッシュ保養型」リゾートの拠点として、より一層の観光・レクリエーション機能の充実を目指すものです。